

(社)地盤工学会関東支部



JGS Kanto

Newsletter

Kanto Branch of Japanese Geotechnical Society

発足三年目を迎えて

関東支部支部長 石原 研而

関東支部が創立されて以来3年が経過しました。当初は霧中模索の状況でしたが、会員皆様のご協力、副支部長、幹事、各役員の強力な指導力の下、試行錯誤でしたが、支部活動が実施され、その枠組みが何とか整備され、全体像が見えてくるようになりました。

当初設定された目標は、一口で言うと法人会員を150団体程度、新規に増強することでした。現在の建設産業の趨勢から見て、通常の方法ではこの目標達成は困難であるとの認識のもと、新たな階層を対象とした加入の要請が必要であると判断しました。これを受けて、支部内に会員増強推進委員会を設けてその方策を検討しました。その結果、(1)大学等の教育機関の土質研究室単位で加入を依頼すること、(2)国交省を始めとする県・市・法人等の公的機関の加入をお願いすること、そして(3)地盤関連諸工法の協会の参加を依頼すること、等を骨子とした法人会員勧誘の目標が策定されました。この主旨に沿う努力がある程度結実して、過去2年間に約80の新規法人会員を得ることができました。



次の課題として浮上してきたのは、このような新規階層に対する学会サービスの在り方でした。具体的には、まず大学や大学院の学生に対して、大学の研究室と社会との連携を密にする仲介役を学会が果たすことが挙げられます。これに関しては県単位で現場見学会を企画するとか、支部主催の研究発表会を開催するとかで若手会員を中心にして情報交換と交流を深めることに努めました。

次に、諸官庁の会員に対して学会がどのような貢献ができるのか、今のところ模索中ですが、技術系職員の研修のために学会から専門家を派遣するとか、県や市が主宰する防災展やセミナーに協力するとか、のサービスを現在実施中であります。一方、今後は設計施工の一括発注方式が多用されるでしょうから、発注側の技術者にとっては監査、検査、照査の業務が増える傾向が強まります。これに関する技術面からの支援をいかに実施すべきかを検討中であります。

いずれにしても、学会はNPO法人であり、その活動は熱心で篤実な有志の方々の努力で推進されるのが常です。よって、このような方々が快適で有意義な活動のできる機会と場を整備し提供するのが、我々支部役員の仕事であると思っています。特に諸官庁の会員の皆様には積極的に学会に足を運び、自ら活動の足場を作っていただくようお願い申し上げます。

従来、地盤工学の活動は調査・研究や継続教育等、会員という閉じた社会内でのサービスが中心でした。しかし、学会の存在意義を確固たらしめるには、社会が認知し、社会が必要とする学会に成長・脱皮する必要があると思います。その前哨と言っても良いと思いますが、2005年12月には「首都圏を直下地震から守るために - 地盤工学からの提言」と題する文書を取りまとめ、マスコミや主要官庁に提出しました。これは中央大学教授の國生剛治先生のご努力に寄る所が大きいのですが、色々な方々に興味を持っていただいています。この中では、性能設計の必要性がうたっていますが、それを目指した地盤工学の研究調査の更なる進展が不可欠であると述べられています。この主旨に沿う支部単位の活動を今後展開していく必要があると思っています。

以上、支部の現状と今後の抱負について述べてきましたが、これらは関東支部に限らず、全国的な課題であるかも知れません。もしそうであれば、支部の活動を全国的規模のものに昇格させていただき、全般的な学会活動の活性化に資することになれば望外の幸せであります。

千葉県立市川東高等学校 出張講義報告

前企画総務グループ幹事
岩波 基（長岡工業高等専門学校）

昨年末に実施したアンケートで出張講義のご希望をいただいた千葉県立市川東高等学校で3月3日に学校出張講座を実施しました。同校では2003年度、2004年度に続き今年度も出張講座を開催しております。

内容は「市川市の地盤の形成史」というテーマでの依頼で、市川東高校の嶋根先生が担当されている地学の授業の一環として企画されました。嶋根先生のご希望と依頼内容から関東学院大学の松田磐余先生（自然地理学）に講師をお願いし、神奈川大学教授で、企画総務グループ幹事でもある荏本先生と共同して出張講義を担当していただくことといたしました。松田先生には、地形の発達史の観点から地盤の成り立ちについて説明をしてくださいました。両先生は、約30年程前から市川市の地震被害想定調査に参画していらしたので、市川市の地盤の成り立ちや地盤の構造をよく把握されており、現在も市川市の地震災害対策支援システムの開発に協力していらっしゃるそうです。

当日は、38名の生徒さんの他に校長先生も参加してくださいました。松田先生には、PPT を使って関東地方全体の地盤の成り立ちを頭に理解した上で市川周辺の地盤がわかるような授業をしてくださいました。授業を受けた生徒達にとっては、普段生活している地域の地形・地盤の形成過程についてであったため、大変興味が沸いたようで、熱心に聞き入ってメモをとっていました。

授業の出張講座を受け入れるに当たって市川東高校の嶋根先生が配慮の行き届いた準備をしてくださったため、出張講座は成功裡に終わりました。

また、授業の後、校長先生、嶋根先生からも感謝の言葉を頂き、次年度も是非出張講義を御願したい旨のお話をいただきました。

第5回彩の国市民科学オープンフォーラム - 地震から我が家を守る -

関東支部 評議員
桑野 二郎（埼玉大学）

平成18年3月6日(月)14:00～17:00に、大宮ソニックシティ市民ホールにおいて、「第5回彩の国市民科学オープンフォーラム - 地震から我が家を守る -」

（主催：埼玉大学地圏科学研究センター、共催：自然災害研究協議会関東地区部会・(社)地盤工学会関東支部、後援：埼玉県・埼玉県技術士会・(社)埼玉県建設コンサルタント技術研修協会）が開催された。これは、埼玉大学地圏科学研究センター

が、一般市民を対象にした社会的な啓蒙活動の一つとして毎年行なっているものである。平成18年度は、新潟県中越地震や福岡県西方沖地震の発生、最近の耐震偽装問題を鑑み、「地震から我が家を守る」というテーマとした。年度末ということもあり例年よりも少なかったが、63名の参加者を得た。

町田篤彦埼玉大学地圏科学研究センター長(現名誉教授)の開会挨拶の後、3人の専門家が講演を行なった。埼玉大学地圏科学研究センター桑野二郎氏は「地震により引き起こされる地盤災害」と題して、まず地震のメカニズムなどの概論を述べた後、地震により引き起こされる地盤災害について、写真などを用いてメカニズムや被災事例を紹介した。構造品質保証研究所(株)五十嵐俊一氏は「住まいの耐震診断と構造補強」と題し、大型振動台による木造住宅の破壊実験のビデオ映像などを紹介しながら、耐震性、補強方法、耐震診断や構造補強の問題点などについて述べた。埼玉県危機管理防災部消防防災課河野貴



講演者によるパネルディスカッション

久氏は「埼玉県の地震と震災予防対策」と題し、埼玉県の地震被害想定や震災予防対策を紹介するとともに、自助・共助・公助の精神が重要であることを指摘した。

埼玉大学地圏科学研究センター川上英二教授の司会でパネルディスカッションが行なわれた。最初に川上教授が開発したパソコンを用いた動画で視覚的に家の弱点を調べられる耐震診断法の紹介が行なわれた後、地盤条件と建物被害などについてフロアとの質疑応答があった。

本フォーラムの様子は、テレビ埼玉や日刊建設産業新聞において紹介された。なお、配付資料にはまだ残部があるので、ご興味をお持ちの方は、埼玉大学地圏科学研究センター事務室 <saigai@gris.saitama-u.ac.jp>にご連絡いただきたい。

新技術・新工法に関する平成 17 年度第 2 回技術相談の実施報告

プロジェクト対応グループ リーダー幹事
古関 潤一（東京大学）

プロジェクト対応グループでは、特別会員を対象とした新技術・新工法の評価と普及方策・開発方針に関する平成 17 年度第 2 回目の技術相談を 3 月 24 日（金）に実施しました。関東支部 HP と特別・一般会員向けメーリングリストで実施案内をお知らせした結果、応募されたのは以下の 1 特別会員でした。

株式会社 マスダ技建（多重セル型プレッシャメータによる地盤の原位置動的試験装置）

事前に提出していただいた技術の概要・自己評価と普及活動の経緯、論文発表・特許の有無等の資料に加えて、当日は約 10 分のプレゼンテーションを担当者のかたに行っていただき、その後 20 分程度、評価や普及方策について出席者間で自由討論しました。関東支部からはプロジェクト対応グループのメンバー（三木・堀越・松本・古関）が出席しました。

この技術相談は、すでに公開されている新技術・新工法を対象に実施するもので、あくまでもボランティアベースの「相談」です。お墨付きとして使えるような「審査」・「評定」ではありません。平成 18 年度も継続して実施する予定ですので奮ってご応募ください。募集の詳細については関東支部 HP とメーリングリストで別途お知らせいたします。



技術相談会の様子

関東支部企画：技術交流会（第 5 回，第 6 回）報告

関東支部 副支部長
三木 博史（（独）土木研究所）

地盤工学会関東支部では、平成 18 年 3 月 24 日（金）に、地盤工学会 JGS 会館において「第 5 回及び第 6 回技術交流会」を約 65 名の参加者のもとの実施しました。

今回は、平成 17 年度から独立行政法人土木研究所で担当している国土交通省の新技術評価支援の試みと、平成 18 年度から土木研究所の第二期重点研究プロジェクトとして取り組む予定の河川堤防の質的強化に関する研究について話題提供をいただき、最新動向や今後の方向性について自由討議を行いました。

話題提供と質疑の概要は次のとおりです。

【第 5 回技術交流会「再編・強化された公共工事における技術活用システムの動向と地盤分野の新技術評価事例」】 13:00～14:40

1. 新しいシステムの概要と動向

2. 地盤分野における新技術評価事例

(話題提供者：土木研究所 技術推進本部 三木博史, 大下武志, 箱石憲昭)

質疑では、新しいシステムと既存の技術審査証明制度との関係をよく整理してほしいという要望や、新しいシステムでは新技術を活用したあとの事後評価に重点をおき、技術の適用性や安定性に関する情報を蓄積し共有していく方向を目指しているといった新技術評価の根幹に係わる真剣な議論が展開されました。

【第6回技術交流会「治水安全度向上のための河川堤防の質的強化技術に関する土木研究所の重点研究について」】15:30～18:00

1. 河川堤防をめぐる最近の動向
2. 河川堤防の弱点箇所抽出・対策選定手法
3. 河川堤防の内部構造探査技術

(話題提供者：土木研究所 技術推進本部 三木博史, 稲崎富士, 材料地盤研究グループ 小橋秀俊)

質疑では、治水政策の今後の方向性や、河川堤防の内部構造探査としての非破壊探査技術のポイントや適用性について議論が集中しました。

続く懇親会の場でも、河川堤防の内部構造探査技術について実務者を対象とした講習会を開いてほしいといった建設的なご意見をいただきました。

平成18年度には、ご要望に応じて河川堤防関係の技術交流会を数回企画する予定ですので、ふるってご参加いただければ幸いです。

「関東支部総会，特別講演会」開催される

関東支部 副幹事長
石井 武司 (中央大学)

平成18年4月15日午後3時からJGS会館において、「支部総会」，「本部よりの『地盤工学会中長期ビジョン』の説明」および「特別講演会」が開かれました。なお、総会の資料は関東支部ホームページ (<http://www.jiban.or.jp/kantou/material/pdf/sokai18.pdf>) に掲載しましたので、そちらも参照下さい。

平成18年度支部総会の出席者数は85名と、多数の参加を得ました。委任状数は1895で、出席率は39%で定足数(会員数の1/20以上)を満足し、総会の成立が宣言されました。総会においては、平成17年度事業報告および収支決算報告、平成18年度役員名簿改選、平成18年度事業計画および収支予算について審議が行われ、原案どおりに承認されました。平成17年度の事業については、講演会・見学会など延べ約50回のイベントを開催し約1800人の会員・非会員の参加を得たこと、「地盤工学からの提言『首都圏を直下地震から守るために』」を対外的に公表し市民や行政府にアピールしたこと、ならびに減少傾向にあった特別会員数が大きく増加したことなどが報告されました。特別会員数の拡充は支部長の強力なリーダーシップの下で行った支部活動強化委員会の大きな活動成果です。平成18年度事業計画(案)については、現状の支部活動で十分に対応できていない官庁関係機関や次世代を担う若手会員を対象にした企画を強化し、支部活動の輪を拡大するという基本方針などが説明されました。全ての審議が終了した後に、地盤工学会功労章の授与ならびに長期特別会員の会社・組織に対する表彰が行われました。それぞれ石原支部長から表彰状・記念品が贈呈され、会場から盛大な拍手を浴びました。



石原支部長の挨拶

支部総会の後に、本部の日下部副会長より「地盤工学会中長期ビジョン 2005年度報告書」 (<http://www.jiban.or.jp/organi/bu/kikakubu/cyuchoki/cyucyouki060526.pdf>) の概要が説明されました。その内容は、継続的な会員減少および財政縮小という現実を見つめれば、会員数が8500人程度までの減少もあり得ると考えられることから、持続的均衡型を中心とした活動方針の議論が行われたというものでありました。

特別講演会は、岡山大学の西垣誠先生による「集中豪雨時の河川堤防の安定性」でした。2004年に多発した豪雨による破堤状況とその要因分析、河川堤防のモニタリングとして堤体内へのセンサー埋設が許されたことで起こりえる新たな展開などが解説されました。また、堤防の安定性に関する土質力学分野の課題が多数紹介されました。今後、多くの学会員がそれらの分野へ参入し、水害に強い国造りへ貢献されることを期待します。さらに、先生は、「もっと市民の命に関係する研究を行うこと」、「小中学校の子供たちへ災害時に若者（子供たち）が何をすべきかを教育すること」を提言されました。最後に「日本で築いたハイテクの堤防防災システム、堤防減災システム、堤防避災システムを私達の周囲のアジアの人々に広めていって、アジアの人々に感謝されるべきです。」と述べられて講演を終えました。懇親会には60人以上の参加をいただき、予定時間を超えて盛会裡に終わりました。



支部総会の会場



西垣先生の特別講演

第36回アフター5 談話会「技術士合格者による体験談」

会員サービスグループ リーダー幹事
橋爪 秀夫（㈱ジオデザイン）

平成18年4月14日の18:00～19:30に上記の談話会を実施いたしました。アフター5談話会は、「気軽に参加できる地盤工学会の行事が欲しい」というニーズから平成12年7月からスタートした談話会です。今回は、技術士第二次試験・建設部門「土質及び基礎」を中心として地盤工学に関する科目での受験を予定されている方に、最近の合格者の方々から準備方法や体験談を聞いていただく機会として開催いたしました。

当日の参加人数は18名とやや少人数では有りますが、ビールを飲みながらの気さくな雰囲気の中、昨年度の合格者の体験をお話し頂き、特に今年度合格を目指されているの方々にとっては非常に有意義な談話会となりました。

来年度は是非多くの方々に参加頂き、有意義な談話会として開催して頂きたいと思っております。

特別講演「海外のビッグプロジェクトを担当して」を開催

関東支部 副幹事長
山崎 晶

平成18年5月30日に㈱熊谷組の青垣英夫氏を講師にお招きして、「海外のビッグプロジェクトを担当して」と題する特別講演会が、産学併せて約40名の参加者を得て実施された。講演会は、青垣部長の約20年間の海外建設工事従事経験も盛り込みながら、つい最近まで現場所長として第一線を指揮していた世界一の高さを誇る台湾のTAIPEI101プロジェクトの紹介を中心に行われた。

TAIPEI101 プロジェクトのビデオ放映（発注者製作）に始まり、パワーポイントを用いたプロジェクト概要、基礎掘削、基礎構築、鉄骨組上げ、コンクリート打設、マスダンパーの設置、耐震耐風設計等、施工手順に従った詳細の説明には参加者全員が熱心に聞き入った。説明の随所で、1日3000人もの作業員が働く巨大現場での施工・安全管理、他国の建設会社との協業、海外事業でのやりがいや苦労話などにも話題がおよび、海外のビッグプロジェクトの責任者ならではの迫力ある講演となった。

講演後には石原支部長が「台湾に滞在した時に101にも訪問した。今回その建設の詳細を伺えて、大変興味深くためになった。関東支部でもこうした実務会員や学生に興味あるテーマの講演会を開催していきたい。」旨の総括をされ、多数の質疑応答を行い終了した。学生の参加者が大変真剣に聴講していたのが筆者の印象に残った。

地盤に特化した内容ではなかったが、一般の実務者には大変興味深い講演会であり、こうした専門以外の講演会も鋭意検討していきたい。



講演者の青垣氏



真剣に聴講する参加者

特別講演会 “2006 Rankine Lecture, Tunnelling and Geotechnics - New Horizons” 開催さる

関東支部 副幹事長
石井 武司（中央大学）

地盤工学会関東支部は、(独) 港湾空港技術研究所と共同主催で、英国ケンブリッジ大学 Robert Mair 教授をお招きして、平成18年6月8日にJGS会館大会議室において、標記の特別講演会（総合司会：東畑郁生関東支部幹事長）を開催しました。当日は70名を超える会員の参加がありました。

初めに、(独) 港湾空港技術研究所の小和田亮理事長から開催に至った経緯などに触れた開会のご挨拶があり、次に、Mair 教授と親交の厚い木村孟元地盤工学会長（現、大学評価・学位授与機構機構長）から、Mair 教授のご紹介がありました。その中で、「メイアー（教授）」ではなく「メアー（教授）」と発音するべきであること、ケンブリッジ大学で遠心載荷装置を使った研究をお二人で取り組まれた頃が木村元会長にとっても人生の最も輝いた時期であったこと、Mair 教授には最も成功したコンサルタントエンジニアとしての経歴があること、現在、英国で最も尊敬されている学者・技術者であることなどを、ユーモア溢れるお話で紹介されました。



Robert Mair 教授

続いて、Mair 教授が、100 枚を超えるパワーポイントを使われ、本年 3 月のランキンレクチャーの講演内容に沿って、次のテーマについて美しい言葉で約 90 分間一気に講演されました。

1. Role of simplified models and their application to deep tunnels in clays – a case history in complex ground conditions
2. Ground movement control – Advances in earth pressure balance(EPB) tunnelling machine technology, - Recent developments in compensation grouting
3. Effects of tunneling on buried pipes
4. Advances in fibre optic technology for field monitoring

その後、休憩時間を取り、再開冒頭で日下部治副会長から、「土構造物と地盤の相互作用の評価において、日本では地盤をバネでモデル化することが多いが、Mair 教授は弾塑性体として扱い、現場の事象を鋭い洞察力で簡潔にモデル化することで、力学的により明確な形で取り組んでおられる」など、Mair 教授の講演内容の要点に対する簡潔かつ確かな説明がありました。続いて、日下部副会長の司会で質疑応答となり、最初の質問に立たれた太田秀樹前会長から始まり、次々と 1 時間近く熱心な質疑応答が行われました。その中で各質問に対して、「まさにそのとおり」と肯定的に真正面から受け止めて、誠意のこもった回答をされている Mair 教授の姿勢が印象的でした。

最後に、石原研而支部長から国際地盤工学会長の時に Mair 教授が事務局長を引き受けていただいたことなどの紹介と講演のお礼の言葉があり、3 時間を超える素晴らしい講演会が終了しました。なお、今回の講演会の開催に当たっては、Mair 教授および 2 つの主催機関との連絡調整に、北詰昌樹評議員（(独) 港湾空港技術研究所）の大変なご尽力がありました。

特別講演「新潟県中越地震の斜面災害の特徴と今後への対応及び ～我が国最大級の手掘りトンネル～中山隧道の歴史・新潟県中越地震体験談」

会員サービスグループ 幹事
佐藤 博（東京電力㈱）

平成 18 年 6 月 16 日 15 時、学会会議室にて標記の特別講演会が開催されました。講演会は 2 部構成で、最初に中央大学教授の國生剛治先生から、中越地震の斜面災害と今後の対応について講演いただきました。続いて第 2 部で、中越地震の被災地である旧山古志村にお住まいの小川晴司様から、震源地近傍の旧山古志村小松倉地区に位置する「中山隧道」の歴史や、中越地震の体験等を講演いただきました。参加者は、石原研而支部長をはじめ、藤田圭一元会長、芝浦工業大学名誉教授足立格一郎先生、東洋大学名誉教授赤木俊允先生他 68 名と多士済々の顔ぶれで、大変な盛会でした。

國生先生のご講演では、何度となく現場を訪れ調査された結果を基に、多くの斜面災害事例をメカニズムから分類し、写真を使って丁寧に解説されました。さらに、中越地震のような山間地直下地震による被害はこれまでしばしば経験してきたにも関わらず、必ずしも十分にその経験が伝達されてこなかったことを踏まえ、今後は斜面災害のデータベース整備、災害予測法の開発の必要性が訴えられました。この分野の技術者のみならず地盤工学に携わる技術者にとって大変貴重な内容のご講演でした。

続いて、小川晴司様のご講演に先だって、「中山隧道」の概要について中央大学の原忠先生から説明がありました。この隧道は、山里深い旧山古志村小松倉地区と山を隔てて隣接する広神村とを結ぶ、877 m の我が国最大級の手掘り隧道です。昭和 8 年から 24 年までの 16 年もの歳月をかけて完成しました。

小川晴司様は、幼い頃この隧道工を手伝った経験をお持ちで、現在手掘中山隧道保存会で隧道インストラクターをされております。隧道工事に関わる小松倉地区の皆さんのご苦労と、当時のつるはしによるトンネル掘削の様子、掘削方向の出し方、勾配



小川氏と足立先生のやり取り

を確保する方法等、当時の皆さんの知恵と工夫について、訥々とかつしかりとした口調でご講演されました。藤田先生、足立先生をはじめとする諸先生との間で交わされる質問・回答のやりとりが繰り返されるなか、和気藹々とした雰囲気の中で講演が終了しました。最後に手掘り中山隧道の記録映画「掘るまいか」が上映され、あらためて、当時のご苦労が伝わってまいりました。

最後に、貴重な講演会を企画・実施していただきました國生先生、原先生、また貴重なお話を提供していただきました小川晴司様に対し深く御礼申し上げます。

新入会特別会員の紹介

新たに地盤工学会に入会された特別会員 23 団体を以下にご紹介いたします（関東支部エリア，入会申し込み中も含む）。今後とも会員の皆様に満足いただける支部運営に努めて参りますので，末永くご支援いただきたくお願いいたします。特別会員に所属の方は，学会行事に会員資格で参加できますので，奮ってご参加ください。

- ・ 中日本高速道路（株）中央研究所（3級）
- ・ (社)日本ウェルポイント協会（4級）
- ・ 茨城大学工学部地盤工学研究室（4級）
- ・ 川崎地質（株）技術本部（4級）
- ・ 国土交通省関東地方整備局江戸川河川事務所（4級）
- ・ 国土交通省関東地方整備局千葉国道事務所（4級）
- ・ 国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所（4級）
- ・ 総合地質（株）（4級）
- ・ (株)総合土木研究所（4級）
- ・ 関東学院大学工学部社会環境システム学科地盤防災工学研究室
- ・ 東日本高速道路（株）（4級）
- ・ (有)ASO（4級）
- ・ TRD 工法協会（4級）
- ・ 共和コンクリート（株）（4級）
- ・ 国土交通省関東地方整備局河川部（4級）
- ・ 国土交通省関東地方整備局東京国道事務所（4級）
- ・ 国土交通省関東地方整備局常陸河川事務所（4級）
- ・ (株)損保ジャパン（4級）
- ・ (株)誠試工（4級）

【行事報告】

- 新技術・新工法の評価と普及方策に関する技術相談会：3月24日，JGS 会館
- 第5回技術交流会「再編・強化された公共工事における技術活用システムの動向と地盤分野の技術評価事例」：3月24日，JGS 会館
- 第6回技術交流会「治水安全向上のための河川堤防の質的強化技術に関する土木研究所の重点研究について」：3月24日，JGS 会館
- 支部総会：4月13日，JGS 会館
- 説明会「首都圏を直下型地震から守るために-地盤工学からの提言-」：4月10日，JGS 会館
- 第36回アフター5談話会「技術士合格者による体験談」：4月14日，JGS 会館
- 赤木俊允先生翻訳テルツァギー先生伝記発刊記念特別講演会：4月27日，JGS 会館
- 特別講演会「海外プロジェクトを担当して」：5月30日，JGS 会館
- Mair 教授特別講演会「2006 Rankine Lecture, Tunnelling and Geotechnics-New Horizons」：6月8日，JGS 会館
- 特別講演「新潟県中越地震の斜面災害の特徴と今後への対応及び～我が国最大級の手掘りトンネル～中山隧道の歴史・新潟県中越地震体験談」：6月16日，JGS 会館
- 特別講演「道路計画の構想段階における PI 制度ならびにその運用」：7月7日，JGS 会館

【行事予定】

- 第3回関東支部研究発表会（Geo-Kanto2006）：11月9日，10日，関東学院大学関内メディアセンター

◆編集後記◆

西垣先生の言われた「もっと市民の命に関係する研究を行うこと」，「小中学校の子供たちへ災害時に若者（子供たち）が何をすべきかを教育すること」は，地盤工学に関わっている我々の使命の一つだと改めて痛感させられます。最近の日降水量 100mm を超える豪雨は，地球温暖化が影響している可能性があり，発生数はこれからも増加すると思われます。今年も既に長雨や大雨による土砂災害が各地で発生しておりますが，被災者が現れないことを願って編集後記とさせていただきます。（樋口佳意：企画総務グループ幹事）

発行 社団法人 地盤工学会関東支部
〒112-0011 東京都文京区千石4丁目38番2号 TEL03-3946-8670 FAX03-3946-8678
E-mail : jgskantou@jiban.or.jp URL : <http://www.jiban.or.jp/kantou/index.html>